

おはようございます。

九州工業大学 情報工学部長の安永です。

新しく九州工業大学への入学おめでとうございます。皆さんのこのハレの日に謹んで御祝い申し上げます。

歴史上、社会構造が大きく転換した革命とよばれる時期があります。1万年～3000年前、「農業」がおこり、「生産者」が生まれます。300年ほど前に端を発する「産業革命」では、肉体労働の多くが機械に置き換えられました。世界中を、ものやヒトが高速に大量に行き来する時代となりました。そして、皆さんがこれから学ぶ「情報工学」は、本の40年ほど前から始まった革命の担い手です。コンピュータは人間の持つ脳の一部を置き換えました。ある種の活動は効率化されました。さらに通信技術は、物理的な移動なしに、デジタルの形になった情報が世界中を飛び交います。地域によらないフラットなグローバル社会が生み出され、私達はその恩恵を享受しています。

一方で、ヒトやもの、情報が世界中を飛び交う時代であるからこそ、新たな戦いが必要になったといえます。丁度200年前にコレラが流行ったときには数十年かかり世界へと拡がりました。現在も戦い続けています。現在、新型コロナウイルスは数ヶ月のうちに世界中に拡がりました。スピード感の違いは圧倒的です。その影響は株価にみられるように

1日で世界を駆け回ります。

このパンデミックに対して、世界中で、数多くの人が戦いに臨んでいます。医療現場はもちろんのこと、多くの人が自分自身の専門性を活かしながら、感染の拡がりを抑えようと必死です。情報技術者もまた自らの知識と技術を活かし、このウィルスの正確な情報を提供し、また、ウィルス感染を抑える薬を探索するなど、臨戦状態にあります。今回のこのような発表形式の実現も然りです。

今の皆さんにはまだ、この戦いに挑む知識も技術も十分ではありません。不安も大きいと思います。しかし、ウィルスは生き物ではないので、人に感染することなく増えません。ウィルスはみえませんが、「もの」であるが故にその感染方法は呼吸を通してであり、その呼吸の届く範囲は有限です。マスクはその距離を幾ばくか短くすることができます。

いま、皆さんにできることは、単に騒ぎ、不安がるのではなく、「3つの密」を避け、このみえないウィルスを感染者として、他者に広げないことです。そのために、「正しい」知識を持ち、行動しましょう。

さて、大学で学ぶとは、こうした先行きのみえない社会の中で、その課題を見いだし、解決策を生み出すための専門家となるための力を蓄えることです。これまでは、「つくられたもの」の消費者として、与えられた学びを勉め、強いられてきたり、与えられたサービス、例えば、ゲームやSNSを享受したりしてきたかとも思います。皆さんは、これから

技術者、研究者として、次の時代をつくる「担い手」として、「つくりて」となるべく、大学という専門家への「学び」の扉を押し開けようとしている所です。この学びは、この変化の激しく、先が見通せない時代においては、一生続く活動です。

高等教育としての大学以降での学びは、高校までと大きく異なります。内容は専門化し、高度化し、難易度も上がります。しかし、単に分からないとぼやき、教え方が悪いとなげくのでは無く、受動的な学習者から、能動的な「学習者」へと変貌しましょう。高校までのようにお尻をたたかれることもありません。試験に出る出ないではなく、学んだ事を基礎に、拡がりや深みを自ら生み出し、また、繋いでいきましょう。

これからも状況に応じては、さらに学びの開始が遅れたり、途中で、休講が入ったりすることも想定されます。授業開始までの時間、大学での学びのスタートに向けての準備をしっかりと始めましょう。3つの準備をお勧めします。

第1に、学びとるための技術としての語学力、特に、英語の学びを継続的に行いましょう。今度は受験勉強ではありません。皆さんが学ぶ情報工学の分野では、新しい、本物の情報は英語で発信され、そして英語で受けとることになります。自分を高めるためのスキルです。

第2に、教科書を手に入れたら、それらの専門書に目を通しましょう。「読みとる」というスキルはこれから必須のスキルです。

第3に、大元の情報を自ら採りに行く習慣を身につけることです。大学や学部のHP等に今後の情報は発信されます。だれかに与えられるのではなく、自らが情報を採りに行って下さい。新型コロナの情報も、論文等の原著に近い情報を手に入れるようにしましょう。

これから行うオリエンテーションは、一生継続する「学習者」としての指針の第一歩となり、九州工業大学・情報工学部という場で、「学び」を享受するための鍵を得る場です。いろいろな九工大のリソースが利用できるようになります。まさに、この歴史の転換期・臨機に、私達も皆さんにとってもよい学びの場となるようつとめます。

皆さんも共に、知恵を絞り、「学び、成長する」よい機会と致しましょう。